

七条中学校だより10月8号

京都市立七条中学校

令和8年10月13日

発行:校長 林 秀雄

合唱の部リハーサル～自分を信じ、仲間を信じる～

9日(金)、七中祭合唱の部のリハーサルが学年ごとに行われました。当日の入退場の確認や学年合唱の練習、そして各学級の合唱曲の一部を披露しました。学年全体でそろって練習できる機会は決して多くありません。そのため、音楽科の先生が時間をかけて丁寧に指導してくださいました。歌い方や発声、表現についてアドバイスを受け、もう一度歌ってみると、ほんの数分前とは思えないほど合唱が変わります。歌声に響き生まれ、表情が豊かになり、学年全体の一体感も増していきました。改めて、皆さんの伸びる力の大きさを感じました。当日の発表が今からとても楽しみです。

一方で、どの学年にも共通していた課題がありました。それは、歌い始めの音が小さかったり、声がそろわなかったりする場面です。また、音程に自信が持てず、どうしても声が小さくなってしまいう人もいました。

なぜ声が小さくなるのでしょうか。「もし間違えたらどうしよう。」「自分だけ声が浮いてしまわないだろうか。」「周りが声を出してくれるだろうか。」そんな不安な気持ちがあるのかもしれませんが。

しかし、音楽科の先生は繰り返し皆さんにこう伝えていました。「音は取れているから、自信をもって声を出して。」私は、その言葉がとても印象に残りました。

皆さんは今日まで何度も練習を重ねてきました。歌詞を覚え、音程を確認し、仲間と合わせてきました。その積み重ねは確実に皆さんの力になっています。だからこそ今必要なのは、さらに練習量を増やすことだけではなく、練習してきた自分を信じることです。

そしてもう一つ大切なのは、仲間を信じることです。合唱は一人では完成しません。誰か一人の大きな声だけでも、美しい合唱にはなりません。一人ひとりが「仲間もきっと声を出してくれる」と信じて歌ったとき、初めて本当のハーモニーが生まれます。

今日のリハーサルでは、指2～3本分ほど大きく口を開け、堂々と歌っている人の姿もたくさん見られました。その姿は周りの仲間によい影響を与えていました。合唱は、歌声だけでなく、自信や勇気も周りに伝染していくのです。

本番まで、まだ時間があります。もっと声は出せるはずです。もっと美しい響きはつくれるはずです。もっと心をつなぐことができます。自分を信じる。仲間を信じる。その積み重ねが、クラスの力となり、学年の力となり、皆さん自身の成長につながります。

合唱の部当日、皆さんがこれまでの努力を信じ、仲間と心を合わせ、自信をもってステージに立つ姿を楽しみにしています。本番まで、まだまだやれる！まだまだ伸びる！一人ひとりの歌声で、最高の合唱を創り上げてください。

ノーベル賞と「なぜ？」の力

先日、破合憲三(そあい けんそう)氏がノーベル化学賞を受賞したというニュースが報じられました。受賞理由は、一見するととても専門的な研究ですが、その根底には「生命はなぜ今のような姿になったのか」という、人類が長年考え続けてきた大きな謎があります。

皆さんの右手と左手はよく似ていますが、重ね合わせることはできません。化学の世界にもこれと同じような関係の分子があり、「鏡像異性体きやうざういせいだい」と呼ばれています。アミノ酸や糖の中には、右手型と左手型のような2種類の形をもつものがあります。ところが不思議なことに、生物の体をつくるアミノ酸はほとんどが一方の型、糖も一方の型しか使われていません。なぜ生命はどちらか一方だけを選んだのでしょうか。この謎は100年以上にわたって科学者たちを悩ませてきました。

破合憲三氏は、「できた分子が、さらに同じ分子を増やしていく」という特別な化学反応を発見しました。これを「破合反応」と呼びます。ほんのわずかな偏りしかなかったものが、この反応によってどんどん増幅され、最終的にはほぼ一方だけになることが示されたのです。

例えば、赤組が51人、白組が49人だったとします。たった2人の差ですが、その差がどんどん広がり、やがて圧倒的な人数差になるようなイメージです。生命誕生の初期に生じたごく小さな違いが、この仕組みによって大きくなり、現在の生命の姿につながったのではないかと考えられています。

裏へ

この研究は生命の起源の謎に迫るだけでなく、医薬品開発にも役立つと期待されています。同じ成分でも分子の形が違っただけで薬の効き方が変わることがあるため、目的の形だけを効率よく作る技術は非常に重要だからです。

私たちは普段、身の回りの出来事を当たり前のように見過ごしてしまいます。しかし、「なぜだろう？」という小さな疑問を追究し続けることで、人類が 1 世紀以上解けなかった謎に迫る発見につながることもあります。今回のノーベル化学賞は、知識の量だけではなく、疑問をもち、考え続けることの大切さを私たちに教えてくれているように思います。皆さんも日々の学習や生活の中で、「なぜ？」という問いを大切にしてほしいと思います。